

学校名	〇〇〇〇高等学校	担当者名	〇〇 〇〇
-----	----------	------	-------

『主体的・対話的で深い学び』の授業実践を振り返って

○「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行う上での留意点

・基礎学力が圧倒的に足りない生徒は、大抵初めから自分で考えようとはしない。また授業に参加しようという意欲を持ってずに受け身になるため、まずは自ら考えようとする態度を育てる工夫(訓練)が必要だと思う。

・基礎知識がある程度ついたうえで、主体的・対話的で深い学びへとつなげることが可能になる。本校生徒の場合、自学の方法を知らない生徒も多いため、学習課題の与え方も工夫が必要となる。

・学校のインターネット環境も大切である。1年生に「知的財産に関する学習」を行った際、特許庁のホームページのJ-PlatPatを活用させて、自ら考えたアイデアと同じものや似たものがないか、確認をさせたかったが、なかなかつながらず時間ばかりが過ぎていき、生徒の集中力も途切れてしまうといった場面が度々起こった。教室でタブレットを活用した授業の際も、Wifi環境が悪く、スムーズに調べることができないといったことが多い。ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」につなげていきたいが、まずネット環境を整えることが必要だと思う。

・身近なことで生徒が興味を持つ題材を設定し、「主体的・対話的で深い学び」につなげるようにする。本校の総合実習でマグロ油漬缶詰を製造しているが、この製造工程を題材に1年かけてHACCPシステムについて学んできた。実習と座学をうまく連動させ、実習の際も生徒に意識させて作業を行った。公開授業はマグロ油漬缶詰製造工程を題材とし、危害分析を行う予定である。これまでの授業での取り組みを見ても、様々な意見が出て、それぞれに考えることができるのではないかと思う。生徒が自分の持つ知識を総動員して、いろいろな事柄に興味関心を持ち、疑問に思ったことはすぐに調べる姿勢ができれば、深い学びにつながっていくと思う。

○「教科の特質に応じた見方、考え方」を働かせた授業実践について考えたこと

「水産」の専門教科は大学生でも難しい内容を扱っている。またそれぞれの教科が密接に関わっているのだが、なかなか生徒に伝わらない。教科の関係図のようなものを作って「見える化」することにより、生徒の理解度も上がっていくのではないかと考える。また普通科目との関わりを考え、何のために必要な学習か、生徒に理解させることも必要だと思う。これから社会に出て自立して生活していくために、様々な場面で物事の本質をとらえ、論理的に考え、答えを導いていくために、今何が必要か、何を学ぶべきかを理解させることも必要である。